

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓 自主・自律 協同

新座市立第四中学校学校だより 令和4年 4月 8日 第1号
TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



偶然の縁

校長 鮫島 弘樹

電車に乗ると、様々な人に遭遇します。肩間にシワを寄せながら、ひざの上のノートパソコンをパチパチとせわしく叩いている人がいるかと思えば、いまひとつ規則的ではないリズムで軽くいびきをかきながら、ついには「ゴンッ」と後頭部をガラス窓に思い切り打ち付けている人を見かけることもあります。

コロナ前のある時、斜め前に座っていたスーツ姿の男性が、おもむろに取り出した箱入りのドーナツ（おそらく6個入り）を、ものの5分ほどで完食した際には、気になってついチラチラと見てしまったものです。

そのとき限りの出会いですが、「世の中には実に様々な方がいるものだ」と思いながら電車に揺られる時間が嫌いではありません。車内にいるのは、たまたまその時に乗り合わせた人々です。

考えてみると、世の中は「たまたま」だらけです。家のお隣さんやご近所さんは、その地域やその集合住宅などにたまたま集まった人々です。自分がその方たちを選んでいる訳ではありません。

4月を迎えた中学生にとって、最大の関心事は「新しいクラスは誰と一緒にだろう？」ということでしょう。本校は一つの学年が4または5学級しかないので、進級した2、3年生がお互い「初めて見ました」ということはないかと思えます。しかし、「一度も話したことはありません」「どんな人なのか全然知りません」からの出発は十分あり得るかと思えます。

人の集まりには2種類あります。「レッズの熱烈なサポーター」や「電車が大好き」のように、共通の趣味や目的で集まった仲間と、自分の意思とは別に、たまたま集まった集団です。

学校のクラスは後者に当たります。前者が自ずと楽しく居心地のよい集団となるのに対して、後者の場合、始めこそ多少のぎこちなさはあったとしても、「たまたま」ならではの良さがあるはずです。

これまで一度も話したことがない人と会話した結果、「えっ！？実はこんな面白い人だったの？」という発見につながると、楽しい気持ちになります。意気投合して、休日に一緒に過ごすほどの親友になる場合もあるかと思えます。

「たまたま」の出会いは、自分の視野や世界を広げてくれる良いきっかけとなるものです。四中生には、新しいクラスで一緒になった偶然を「せっかくの縁」ととらえて、縁を活かし、縁を楽しんで欲しいと願っています。

今年度は159名（4学級）の新入生を迎え、2年生165名（4学級）、3年生172名（5学級）、特別支援学級3学級の計496名、16学級でスタートいたしました。

ICTの活用など、新たな教育の在り方を推進しつつ、機械で代替できない人と人との関わり合いも大事にしながら、教育活動を進めてまいります。1年間、どうぞよろしく願いいたします。